

〈福島県中地方振興局長賞〉

税金は縁の下の力持ち

天栄村立天栄中学校 一年 有馬 陽菜

「ワクチン接種、頑張りましょうね。」

とても緊張していた私に、接種してくれた看護師さんが声をかけてくれました。

今日は、中学生の新型コロナウイルス集団接種の日でした。副反応があるとニュースで見っていたので、始まるまでは新型コロナウイルスワクチン接種が怖かったです。会場は、村の体育館でした。体育館にしては涼しくて、仕切りやたくさんの椅子が並べられていました。いつもの体育館からは様変わりしていました。

「椅子や仕切りはどうやって準備したんだろう？」「涼しいのはなんでなんだろう？」と気になることが多くありました。だから、母の友人で、「天栄村新型コロナウイルスワクチン接種対策プロジェクトチーム」の方に、話を聞いてみました。すると、次のことが分かりました。

ワクチン自体の費用は、全額国の税金で負担されています。エアコン代やシート代、パーテーション代などの会場にかかる費用。医者や看護師、プロジェクトチームの事務職員のお給料。準備のための病院との打ち合わせのための交通費。ワクチンを保管するための超低温冷蔵庫なども全て税金が使われていました。予診票や接種権などの用紙代、それらを郵送するための郵便代、色々な人との電話やメールや予約システムのための通信費にも使われていました。

ワクチン自体に税金が使われていることは予想していました。しかし、実際には、ワクチン接種当日には、関係ないように見える費用（用紙代、郵便代、通信代）にも全て税金が使われていることに、とても驚きました。

また、こんなにも税金が感染症の対策や、施策に役立てられているなんて驚きました。

ワクチンの他にも、税金が使われていることがないか、知りたくなりました。

天栄村では、去年から「新型コロナウイルスにまけるな！てんえい村民応援商品

券！」という施策を二回行っています。天栄村民応援商品券を一人当たり一万円配布されました。この商品券を使って村内のコンビニや、飲食店で買い物をしました。

母は、「普段は、天栄村内で買い物しないことが多いけど、商品券を用いて村内で買い物することが増えた。とっても助かった。」

と、話していました。

私は、税金が国民の生活をよりよくするために使われていることを小学校の租税教室で学びました。でも、流行りの感染症対策にまで税金が使われているとは知りませんでした。

税金は、私たちが必要としていることに使われているということを、新型コロナウイルスのワクチンを接種して改めて実感することができました。また、税金をどのように使用するか話し合っていて決めてくれている行政の方々にも感謝です。税金は、見えない所にまで使われていて、「縁の下の力持ち」という言葉がぴったりだと思います。